五

へ8
4340
5

4340
5

玉榮堂

玉榮堂

繪本黄金鯖五之巻

送り物向ふ一面の黒幕後病ひ大門口其中ゑ寄部屋出の新山掛行燈
さつぱりあかく幕ひく〳〵ト拵ごつもの石ゑ友ゑ大ゑの新ゑてお劇とうげさ
おげ〳〵ゆる兎さうだみどり〳〵ふれまゆ弥吉利他ゑるぐいゑ新ゆらうぶろ拵さ
向ふうるゑこどの神ん森ゑやしと陸〳〵ゑ中ゑ出るゑるぐゆゑ戈ゑく鶯ゑの
取られて八重菊はんせの取ゑて男大勢有て出る
「て待く」ト取ゆうゆ海嵐ゑるるのゆ大体ゆんぐん拵でゆるゑ
お新ゑの呂ひ付ぐ新ゑの体ゑされての神新向ゆるぐ〳〵新倉の隠ゆゑ越揚ゆ
さゆ新ゑ寄ゑてる海ふ〳〵て廓中ゑうぶろ拵と送り新ゑうるゑゑと味ゆりせ
さんゑようぐ〳〵どの大そゑでゆるゑゆ拵ゆるのぐゆりゆ「お新ゑ」ゆ
あゆのいやどゆのと新ゆゆつてもお新ゆの隠さみゑさるゑ日野ゆゑ

嘸しやくおつしやつてゐなさるにお成なさつてあつたネ 支「アノ去年より文がやつてなさつた
よく名古屋へ参つたおぼろ様までも歓ばしや 「ありがたい事ではございませぬかお客人の顔へ
とうぞおぼろ様が月でござりまするならおめかし申しますへ「いやしうおぼろ様よりひとがつの事な
顔じやうござりますよ 支「やれく売れた身でもどうぞおぼろ様がひとがつやのと行でぬうしたのか 「いやさ
うぢろ様がさぞ／＼と ト皆々 支「けふくからぬ ト支も大後へ行かせて連れて 皆々「うおぼろ様が
おさらう／＼と ト此人奥より上り物して来る 皆々「御客人のお入 支「ヤアこれ子御客人のお入りと 皆々「お招
其のおも切な御座るか 支「もふ乃勢して申す程に御客様のおたふよお通ひ申せ「合
点でございますと ト両方より出て来る 此方より流行の一対の衣裳にて出て来る 続 大刀持
千客の為の衣裳にて此方へ出て来る 立の給人中の物 皆々座へ来て並ぶ 続「出迎
今の人「そのふさ筑紫のお人を送りなさる文吾妻の遊ひ業を勤めなさる 女の心の
云付名もお顔も見ぬ此方を送ひ申して参りまする 今「この恋路の事まで

いやべ後も支よ若な後らんと出ど姫様ひとものいふを識る傾城のけんおやな此柳うが
とも西国にて名高き玄宅「さやうで此の外物なら此方も遠ひなるめく廊の
揚揚ア出に柳よんとやう情と我と高ふ姪女の乃さいやうたゆふさ物でなり
外ね 支「是ハ千客のお局全妻所の御出所おいとひなく是迄の御来駕御出
労ふ万よ存ずる ト是うて皆く取りぶ遊ばすくなぶ 「石高取ホ有所の全をひ身も下さる
女の前をそぐうちとぞひらかに御と今春まつとなの外 ト編笠を取れ 続「是でおなくとぞ
笛「女中全「コリヤく魚取らぬ人の「、おなくとぞそうどと存ず極くも武将の義輝の
めのところ千客のお局 千「玄宅ひとくい 玄「ハツ ト言ひ合ひ 支「いやお局全の御ろぐ
先よりひな様屋方まで支でも不粋風でせ一献に上られ声なるづら 浮世
亭主宮の昔にてお差し全の御挨拶よけなや申しておもてうしやせ 「是うちて
御外 玄「イザお局全なる先頭屋へも入なさんせ 支「いかにも御おんなの

仕イホ千しゐ金「ゑんま帯ぐ」お紋おく御祝儀の酒くち遠ふて今こそハイ様
遠と一ぢこ曲輪の及酒「皆の共お供仕ま「古知ゐぶ」「女お大臣公」「今宵さき
供さふ「うこゐう弁こ「サクムんさふ」「千綾姫さゑもト綾姫が綾「アイ「サクムれ
トさらに今宵の居後宿ゑく大門にえ入トまゐやの四ゐ
大せとめをゆゐうこ去姫ま弁こ改赤ま弁おてちんゐ生て暮て「此此遠が義経のく
いふのでゐふナ「古知ゐムゐ弁アレま大門にの柳ごえ弁「おまと遠入こ三筋町の揚
屋動ゐづ屋とやこモウゐ侍のお居金ゐも御へぐゐふサアまゐと「ハウトなぶこく
けんゐふづてこ「ハテこをつゐく蒙おゐ音ひの義ゐ決とゐこく蒙れ「ハウトまこの只ゐて
ちんの決きへる
ちと教こゐく ト内「ハイく何でゐゐ弁ゐ「イや付まの老ドやがてくちんの決とゐて
紙ぎ坊ゐたぐぞ決と言ゐうてトされ「ハイく お安い御用てゐ弁ト内ゐ夜ま
出こく「コレく糸い トゐひくてちんのらうそ決とゐこ一ゐ内
糸義のゐ家ゐ上彩ま傷「古姫ゐま弁こ改ゐ「ハテゐひげけゐ義「面目ゐれ対

面を仕ゐ弁「動者と宮さぐ「古知ぐゐ弁ちれ放こ此流浪ミテあるきゐハゐ
出ゝゐ紙ゐ市ゐ「素今宵ゐ決を義ゐ「武将義経の御昭病ゐ生きて
ちもゐを決ゐ付三老織ゐ公とゐてゐくまゐ而屋の年月御ま孝れ女の行の暁
の才無ゐ弁美孫宝珠の秘業ゐ才ぐ男ゐれば五ゐ御平金ゐ人くの義ちれ
所く方くを居ゐうくゐ宝ゐる右の年月掃ひ女お紋を四こ廓ゐ法人の入知ゐ
ゐひて女ゐ門ゐるこ恋べく公を付ふ宮ゐの居右の河義こ手ゐ法花今ゐ手ゐこて
ゐの秘業の「屋の年月掃ふ女の河義紙ゐ付られて下ゐ三ゐ恋ゐべ恋ぐこふ移ぐ手ゐ
「ムく形ゐく山波業を形ふちぐ和和ゐて「れ春の面ゐ動者の外れ拙ゐれば「ちれ
を切小動者の滝ま人ゐ月ゐ弁ゐ「アやゐ人も動者の義仕ゐれば「ちれ
ゐ拙若が形ひ河平ゐ年ゐく改今の右情で「ゐ年知ゐ改ゐ
く改が春くゐ付て自ふ「スリや河原知下されて「いふもゐこ付ぐゐ宮を

仔細なれバ「茶肉かてら「要綱を通ぬと「…ハツ半の拍子「気上りを糸の
手や廓の番人「ハウ ト…年の拍子物家来て大門に入るとより目に…して出
ひさしにお祢ど替つさせても子の上たるだ綾猫もあひに吾妻路も…
林に影をく未曲か…れと思ふ程行て付て…おを浮世 ト大門より合方にて…
ゆうろ出を おて出て来て「目く物ならう「サアゆうろをまて「ひまうる座にそれでおまへ…
ト後をれて「ドレく ト伏とひき「サアそんなら…ひさづか座にうら「後に出んで行
…の「ゆうろ…来て上かさんせ「今気じやく「アイく ト由つう大門…
伏とやして…「姉さく 何でも今宵…や八百んで綾猫に…と ト大門口の…
…その八ッ…来て「やかく 二切の結あつれ人の足を踏さして…も
…「おひろか足を…あてがふせるのじや ト…「コレく…
や…ての…方のお足を踏出しこそちんと…引んで御免て「いや…

つやな…白けて…ぬ風の袂の内に…をまらのうん…
に「揚屋の門ぐ「踏外…「サア…ト目く…戻つて来て直に…
目く…「ヤア工ヽ…を「大事ならん「…つや何で「…
ト…一…ちあいとおる…「ひあづく座 ト…を
…人「…二切め ト…「手…
…「ヤアそれを「今…廓のおなれもの…私が役だ
外「…ト大門に入…「イヤおそ ト…人…
…「…の…ト刻限を…大門口…
送り物三間の…二重家…二西の茶屋の…西の中二階…
門口に飯橋…と云掛…水…の…
…揚屋の…道を留る ト…て…

千鶴の方をそ伝ぎ[illegible]

「ア同じ[illegible]月がせうあるを[illegible]廓くまさもどうぞおゆくを遊ん[illegible]

とふ役とあたて情のお丞年伝字[illegible]て下されまどの文月が年とどうくとふ[illegible]

みと義輝公云上[illegible]新行と様よふをの切後さんのそうやり[illegible]言いでも新[illegible]の

毎つ文自とそるが女とて役よ言ねと思ふを言えさ[illegible]へく張りるを[illegible]動者[illegible]

つ加傷がまくべ加傷もさ及立男出世[illegible]なのまく是行[illegible]こ[illegible]ふて[illegible]月ぐん伝

推[illegible]して[illegible]よん[illegible]と[illegible]て[illegible]「どやといて此お丞[illegible]「[illegible]ぬこのよそ

つ[illegible]や情[illegible]狗欲じゃ伝の[illegible]るれべそ伝千鶴が色行と近[illegible]とつをよ[illegible]るけ

[illegible]べ同じ[illegible]伝[illegible]るこの月の上じゃが○ハテ女のにくあくさ[illegible]ふ[illegible]年と云

出[illegible]こいやでも疲でもけてとり[illegible]べおりぬ徳め[illegible]べ伝延清ト[illegible]

統清 大年のやりも一[illegible]て色行[illegible]ふ役とあひやり伝

統清とよふふれてあひのこけ伝ちをそて[illegible]ト[illegible]

とあるを「ア[illegible]是とトやり[illegible]

「海士の旅家の文姫「工行と トトー[illegible]

「子狗欲お月之伝廓[illegible]「[illegible]

合方おてとう[illegible]

と変ひ和[illegible]肉用[illegible]対て此傷系[illegible]

それを新[illegible]を持く来こ月伝つれる[illegible]狗欲今の河の踊くそつやあんまうあどうく

じゃうえのふ トぶくいとりさとうあこ[illegible]コリや行じゃ トぶくこ ムウ そんあく今青伝場[illegible]

ど毎びあうふムウ トこうあ西[illegible]

「是八千傷今場[illegible]出て[illegible]

藝おぐちあぐこあゃさんとおあことお結ゃてあうあるいぐく[illegible]

「子こあひ迫せべ迫そ行[illegible]

「行の文どや トあやうあ[illegible]

裏日野左文
中むら松江
えんがの
裏日埜
諸つゝ敷きの
金銀をまき
散らす

外とのやせんせいの小刺き出る武蔵を
入さるよ好くさるとの〳〵〳〵
ふてせんせと受れ出ると
うるさと時分の宵くあて
同出るよ源さ腹ひ事よ酒よさ
千あと身面ひよ活春ぐ男九一人お捧さ屋ともひへぬそよ〳〵
教して コレ男九身りよにさうせたぐよ身春で祭るとも面うあを刺た一人ひまとこの
さとしよりふ〳〵〳〵ト 吉日の名よ花付 アっミト蔵のく寝〳〵毒の コリや笠の男
さらぐあぐんあ〳〵 吉日蛙ひ〳〵刺が焼豆腐よ祭ても大のえん〳〵 〳〵さうい
紅中ーやこの子 〳〵ちっいっ〳〵 伝を身中今有の男どもが紙面で部金の美紙今見ん
もとば豆ぐやーぐるこのふて大きんの今紙とぷっ〳〵とすれちとしこがア 今い アノ紙が
まのこ吉ぎ歩や小刺ん 〳〵ア〳〵 アノ今ひきこうと男結をるといふてお茶が祭て
男ん こと付の今よやこのあア 〳〵アー 大きよ花ぐこの見紙 〳〵石ア金〳〵 紙のけ見紙
ぐく公祭

お心が男やーこう 〳〵ふを腹ひよ心が吉見ぐ紙ぐこの
付の今ぐんこう 〳〵アイ男 〳〵男コりや〳〵 おのれら年今で供吉日地と清出 出発ぐ
ぐ〳〵ぐ 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵
形角ここーが年紙の脱義よ中こと今と
〳〵テモ あるやち日中の男張の今ーよやこの 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵
と私が紙がをこうぐ坊男もこーこーこ 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵
ぐ〳〵ぐんさがよんこうの 〳〵紙ハ五〳〵ぐ〳〵ぐんがアノ大ぐんの今と 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵
ひやこよいふて紙ひよぐの入ぐ〳〵ぐんと 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵
こうこよこーが男ぐ今あげる男ぐとんの石コ酒の解から面男ぐんだりや
やこ 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵
裏の 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵
もの 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵 〳〵ぐ〳〵

よふ精ようてくれさま　ナニト生ぶんさらあの御ようにきげんの悪れどもとうにが
あてこいふものじや　コレヤおんなのようすと猪とじやあてこめるさ五兩じや　お竹
後をかうさま　こあの人へ書おらくこいふんさのそれでそうそんやおの人なこ
のそうと今をあれてトさんせ　ヤアアヤ此ちしこそ上よあれこそこれいう　いやこいやや
おろしやんせお竹後をうしがかうこせやろうさのの和書おらさんせ　ヤイヤイ　コリヤヤ女郎の
そこそこそあがたこそれるシデ伝が報りや　ヤイヤ五兩報もこうあめこうあ　ヤヤ
コレこそうこそ胸りの仕やうこそこうかの仕出こそあるこうあ　て分たよ出すてこもく
ト紙入のこ　それでよいうテモあらへのの書おじや　ヤあてこうあ　ト今とこそ利
いたく　イヤ　ヤ　日野屋なうこそ　ヤあぞいうこそ花をさうこそこあ和こおん公家でうあ　コレハこあ
こうか、あ上の報こもよびあれ年此利他分をこ出間大坂うこうこ大報分じやが一人の娘
分とそこのの母分よ若行かかん分こあ胸ヒいおかあ母分ぞふで吸で上てトさんせあ

市　ヤ　一己ナ伝のあれが母状の年を拝ておきこあのく　コレこそ難いやこあ金ーあせここそ所
奥方様の伝母がようしが母が伝袋がこ五でおじや　ヤアイく　トいこ　コレ猪く　コレ長日の
そあこの母こ袋をこ五よあこくどこそこのじや　ヤアノ利他こ金上あこをうここあこれこ　ヤ
猪こく　コレ今こもこがあこ猪こ後こここどこ猪こ猪こ母こ　ここもここく利他母こ猪こ母金
伝伝ど入る　ヤアこそ五兩年かここかみる　ヤアこやいろこ報がでこうこうこ　ト長日のが報こうこ金
しこあこ長こ　ヤろく　ヤいろこ七やけどこうこの母こうこりや　ト金こ出　利　コレ　あここ上
こうこあ利　ヤろく　ヤいろこ七やけどこうこの母こうこりや　ト金こ出　利　コレ　あここ上
ト猪こ後　コレ　拍長日母こうこの柳七ヶ氏すこうかどこおこ　こうこうこうかどこおこ
買こうこれこて売流こうあこうこれ伝あこう　カんこうこうこうこ母こ買こあこうこ人
しこうこ伝がこど　ヤ　ハイ　年一年ヶ五兩ヶ六年で五六の二十あこうこここうこ　伝ヶこ
こうこ　細工がここうこ外　ヤ　こうこ出年ここ八こ石ここ分こ氏年　買こここ伝こここここここ
ヤア　又年　ここの人　ヤ　いやく　トここここ　ヤ　こ買ここの時ここれこ一年ここここここここ

おじや行とあんまて丸十日修行をするきゆう 弥「それも僧するそ高とすて残すさ 妻「ナント実イなあゝしなんせ
あらぬ丈夫の経ておじや 亭「コリヤく 茶ニ千両 ト紙入より出し金弐百両 弥「代恨性中文九平さ
妻「茶の代を済ざらいナ 利「何もかも高やうと済すさ 亭「此外を今々おやむりして来たさ
入でおつかの子妻日暁 妻「嫁いつあいナ 亭「嫁いの嫁でべ弱丸もちつと嫁がをもあ客を 妻「どう
もなく 亭「良人へおじや抱上て寝すふ 妻「ナ 亭「ハテそなたがつかまそてうしろから抱る行ですがナイ
とらまそうだかれて寝るあとのあさしやうあらう 妻「すナそれへナ 亭「まあひようていやさあさ出れ
すて抱上て寝やく 妻「待しやんせ 亭「又待といのう 妻「うるさやるのがお家と誠入をするまであ
でよふ私もかりよつて下の呑で行ス 亭「コヱ是はあたの女子の酒を酔て膝かあんものじや 妻「ソ
下呑だく 亭「そうや酒よる済 ト抱上る 妻「で此のちへさんさ我でやこしやのつそ持ちく
呑みつる事 ト おや吉と寿して 皆々「コリヤナンとまで出かる 妻「ナ「下の浮がんせ ト わつけつくとのひ
あひまのじや 妻「お若よ飯つてのでを法角も下のつがんせ 亭「コレく妻日暁子がよ呑で楽あるに

床へが母くゐしやさんしかれがすけてゆらふ 妻「人て主様の子が下すあてかさんすな
さいれでうく呑ぐ上らん ト呑そく 亭「ろ芭で呑う 妻「おさえ会をら 亭「ようやくおさえ
ぬかれが呑く 皆々「旦那それで上つのあら ト口へ 妻「ド」ヌヌつがをすやせふ ト のまるる 亭「で
コレく そふ呑ぐ思うかすてめ気をくあが考ら弱出入ーじや純ぶとあつちへ抱て行 妻「おかく
一人が行でめてくじやへ私もめをくじや 皆々「めでてくじやくとゝとゝ ト是にて此間中文言くへ酒をやつてのんで大騒の
おひのうく」妻「それは着よ気にらつづんせ ト つがいての三年うろ者の縁路を出して明日の身をト
猫 僧「待しやんせ 妻「此所ともと思ふて縁路今の事 僧「妻多神ふコリヤアおかさ
るでたんをおへ夫日おらう無心く大酒とさし出んともゆてら来れど此度の事
せぬ里人よめやと思ふて頼めんその今とのすまを引人が手をかさこ
る侠客のさく面板らひくなすがあーじやおつがう人々の関があくまくはおうとあくへく
承やーかんとしあ弟十九日の日分もた切るあて縁迄やらやうやの子付右の東極

おも親方さんのきげんをそこねまして両国橋辺へごんくをうたふてもかうしたことに迄も皆手前二人
を揚げ句に縁から突出して 引出し もあのそれをまだ突出したと明けても暮ても敵々の中
そなた手前とは大酒さへ呑まなんだら命も銭もつゞくのにアノ嘉日様の仮城に御会ぬ実の母に
もアノ兎の様やそコレ可愛い子をかはいくそうに養育なさんだが仮城に御会ぬ実の母に
子の身のが後が立ず深い遺恨してもやはり酒をのみて下さんせ斯を歎きまして
「嘉 悔く
後々もどうぞ綾路さまの御実の父さんにやる気も無く目もあらくけれど今までも君が御来
も勤の身は御会ぬ身代わりに ぞんぜぬ君様の客に勤め従ひ其中を酒で少し余酒
勇や両親の長らへといふても勝つ者がなく酒無ければ義理で共存する行ではないと
つらいものをいふても一口にのまんとそれよりなを其の事はいふ もち卜汗の酒て面影く綾路
ない事も仮城に御会ぬ事よりそ一口呑しやんせいとト汗に言ふ綾路 「ヲヽ 嘉日様
「嘉 何かやへ 「綾 あんなおんなの綱出て物が言れぬといふ手を揉めるにも酒一ツくらいのみ
かと酒を呑しやんせ酒がすゝみまして何も角も忘れて仕舞ひがよいわいなアそしてまあ
く コレひとへにわがまゝと存ますれど人目があるからきれぬ是のみで嬉しくも
りますのよ ト言ひ入 「嘉 コレく 嘉日様綾路さまが見てあるよふに酒を此で お姉は
此く今宵八つ時と抱きつて寝とくれやコレ新むかの 卜嘉 抱しめて とうろ 「嘉
うつさへして抱きてまくといやでくらぬのが方行末の生涯を寝くれてさま
そばで抱きて寝たいのが深い事が有りますかの綾路さまの酒のみ
酒さへ呑みまして見えさんせ今宵はいかにまうしてんで行とい有がたい
まあ酒でるければ浮世が浚られぬ気のどくな浮世うしてあんまりくたびれ [illegible]
る 「嘉 コレく 嘉日様 真に寝てよいあの人の風邪もうへの [illegible]
るる今頃もまたお伽噺じや 「利 きく 打夜をゆく目覚め一ツとどうぞ 「友 [illegible]
あくとおやすみ其の碑のさわりさく奥へ行く 「嘉 あんまりそれがよいわいの友一綾路

[illegible] 後「サア皆さん二両ずつよ ト[illegible]喜日出[illegible]

下さんせ[illegible]ト[illegible]皆[illegible]男[illegible]の方へ[illegible]

[illegible]皆[illegible]喜[illegible]の 喜「[illegible]の細[illegible]

[illegible] 皆「喜日出が 喜「ヱイ ト[illegible]皆[illegible]でござりまする 利「[illegible]今は

[illegible]皆[illegible] 弥「[illegible]代の三十両 ト[illegible] 竹「これは私が[illegible]

[illegible]ので[illegible] 弥「これは[illegible]のといふて[illegible]

[illegible] 新「[illegible]人を[illegible]五両 ト[illegible] 竹「アノ[illegible]の十両 ト[illegible]

房「ハイ[illegible] 与「皆[illegible] 弥「[illegible]

新「[illegible]大方百両あまりも[illegible] 喜「そんなら[illegible]下さんせ[illegible]

[illegible] ト金[illegible] [illegible]皆[illegible]の中へ[illegible]

下さんせ 皆「[illegible] 喜「[illegible]

さんせ 皆「[illegible]皆の中へ[illegible] 喜「[illegible]下さんせ 喜「[illegible]

[illegible] 皆「[illegible] 喜「[illegible]

人目[illegible] 皆「喜日出が 喜「皆さん[illegible]でござります 皆「[illegible] 喜「コレ ト[illegible]

[illegible]喜[illegible]一人[illegible]の[illegible]

[illegible]

与「喜日出[illegible]吾妻[illegible]の金[illegible] 喜「これは[illegible]

吾妻[illegible]の[illegible]の金[illegible] 与「[illegible]の金の[illegible]

[illegible]下さんせ ト金[illegible] 与「[illegible]大方二百両 喜「アアそれ[illegible]

ト[illegible] 与「[illegible]

[illegible]金[illegible]の[illegible]

[illegible]の三百両[illegible]六百両[illegible]

[illegible] 喜「[illegible]六百両の金[illegible] 与「[illegible]

ト妻日次に素しく 妻「与次どの近よりて金を請取てたもれ 与「それは違ひござりませぬ 台「合
点でお出しなされ 台「コレ与次 何と酒をつがふかいなや 妻「何ぼうさて 与「耳を揃へて六百両 妻「合
点のゆかぬ 与「是は紛れもない語る金ぢや ト合方にて与次が出すを妻日次受取り 台「合点でござんすを
手前のほうへ下さんせ 金を揃へてとくと改めて行て〇ハノ 是までの為なれば道理を知て
衛門をあらためて此金 ト金を見せ ふところへ入れ 因果な人の金とござんせねど此ひも料も此身をまかせ
まだ此上に是ほど辛苦をせずと思へば恐ろしや 今ごろは浪人の夫婦の身 天にもかへ
佛神にお頼み申されて下さんせ ト後むきになりて 今ここから此身の事を
あれ吾妻様の為の金六百両の都合にて三百両ずつ揃へて持でござんせ ハテ
何と是お礼やあるぞ ト吾妻の内瀬が来て 吾妻の身に来る瀬のこころ細がつて
このやうにて御座る ト独でさめざめと泣き おそろしや ト独りして
しておくれ あそこへ仕かけて 此の所より あたりを見廻し 血をつけて
ことぞかし 此のさまあやうく血をひきて やアコリヤ 吐血と
中の病ひの人目ありつくそ ト次郎はあとを請取よく見まはして血汐 ア恐ろしや
此笠でもみつかりやすまい 命もつづけばつづく 今の身の上をよく考へて 捧ぐる念で呑込て
さげしこ文にも夜具も知れぬ 見合せと云ひし此 婦人の勤る身となりて身を立退き
やかましと言はれる身の因果を腹立も同じ御浪人どうぞ此ごろの御恩を思ひ身を安じ
男も浪人になりつけて此身をしづかに難儀をとらひ 其身も女の身へおぶさりて男
又常細へ解かれて在所にあつて勤番で気強くあるまい此二度とおぶさんを容
も此揚屋の每日の付届け 親方にも隠して 身の辛抱もたまの為の
苦労と思ひ尊きを晴るや 常細さんの勤めに 浮世の表の様がわざと同人にも頼むにて此身
それよりあとを云ひ付るさ 大酒の妻日次を紋日の騒ぎ 見てやれ 一子の延べて顔色
と来る人毎に言はれて 寄付ずとも辛抱する命がつづくかぎりも振袖一重ものの身ぬ
酒くみ此のこころにも魔乃の三絃からその綺羅を夜着の身にもあてこそあかまし

の為とあひつめ人間なれども契をなく注あらし注ぬ日迎をかろうとうのアト古注内おぐ合方千もの為一方のさとしの内りく
一方のさとしの内りく合方千もの為
〳〵年寄さつと後妻をまとる注
してゆらふとあふぐコレ寄る今三百文紙方と中を縁よりて章を
見いろふ酒よ天碑て祭ひてふ嫁さアア三百文の今八文を知ふんのト花と中のく
とあを　ア　契を性ふ千酒ゆとこいふ女大妻分後弱分の男女とみへと百文今八
鼓〳〵角ふ〳〵も行ふう〳〵ぬめるこの男の上ちち〳〵へる法のトいろく〳〵
ふ〳〵ア　ト　一間の
移ひ人遠〳〵せるとしづるひとをとこ〳〵つるとうげあ裏日の銭布とろてふと
小梅さの〳〵あるちゆりとり越を越ひうみのるぬぐひふく中花布をふとろくのふと千酒の
為せとひ〳〵〳〵　千　ふるふ裏ふ泥じや〳〵　裏　ア　千　お仏城をふぐトらく〳〵　裏　ゲいろうや
裏日町でぐんをとるア　千　そ伝行裏日町ふ屋内の洗〳〵ふ〳〵ド〳〵ろうと迫対ま
外ふト裏日沈ゲ方りのやアひ痛ろ　裏　ア　見へトらのと
ふとふんく〳〵　千　自ゲ男今を沈ぐ
仏城ゲあ石ふぐのふ法出今ん中〳〵　裏　ハア　ト支ふく伝宅ふく〳〵　裏　ア　千酒今あ

この用今鉦ごとの　裏　仏城を行裏　千　コレ氏裏日町　裏　ア　ト物り　裏　ア　千ゆ
そうおおつーゆんなおそんなお成今氏鉦ん〜ざ抜ふとそ見へそムべせんでく　裏　ア　そ〳〵であ
仏のそあさう　千　石ふぐ石ふる仏味の角抜う　裏　ア　今ふく石ふ〳〵でふふ布ぬ　千　成
でるべとむ〳〵ふ裏さうれ　裏　ア　ゆ今ふふ
頃　裏　ア　張ふを行今ふぐ張ぬトゆふる裏日のぐ張　裏　ア　行のふふ
トふふふを　裏　ア　行行トゆ千酒今氏成布ふ　裏　ア　ふ
中と　ア　ふふ　ア　毛中ふ今ふふ布ふ　千　そふや自のトやテモ怒ふ　裏　ト
ゆふの布袋　千　いふの男ふをふふ〳〵ふふいまんまふ鉦ふでふ　裏　ア　ふ〳〵ふでふ
せぬを今ふふふ千ぐ鉦んだれど中酒ふふもふ
中ふ　千　ア　ぬふとふ成ふのめのと千酒の高曲梅へ来ふふ成布の中く布袋ふ入
ふふふふ　裏　ア　今ふ仏出　ア　ぬふ　裏　ア　それでもを

それ二人は懐中を探し、紙布の
三面鏡を取り出し、今てうど
そこへ来たと思ひ、「テモ遅くさみしいとうや自分の今しや」「そうやうも
しらお房は」「なに遅きもの」「あゝ知ぬさて今ちてうど遅うるれと紙布の中の今のは知
「何の為にこうや自分の今と我がうちへこのやうれとろうへとのやが行うと
「うエそれでもそれを」「こうゝの今」「アイ」「ナセ遅きもつて」「エイ」「こうや自分
今しや拾へぬ拾ひ出紙布の中より布袋あつて」「サア」「サア
「サアイ」「生遅くもだうあるそれもあるせいたん」「ハア」「ト言ひのと」「イヤ
不思議さがめまつ悔さが面白ふよおれと考えさだうて今分あがつさアそむこへ
まあ此ざるあれとひだうまさがトしあるうて」「家を遅へ仕懐めト」「あるる」「サア

よう〳〵引き抜くあれ奥へ出て如何たぶして孟母せよト言と懐く
引入「どうぞ今とト言て遅」「ハイ」「こは遅今とあるだろ」「イヤ遅くもだ」「エイ」
うゝあと持て現在ゝゝが「何がみても今ゝゝ自分ゝゝ遅しやうこの人」「エこゝ
へのふへ「何代」「ハイ」「又の所遅」「二人は奥へト言の為あるゝ連
あるうゝ公言月神まゝ言て」「エこゝ」「ハイ」「ハア」「ハア
でそこて言れぬ遅の遅うゝどもうゝて都南なと言ゝゝ言遅遅なの為ゝコリやアあんと
せうだふあトト大臣ゝうゝかゝ言月神」「やうこうゝの人コレ吾遅遅なの為ゝの今と
拾へうんとチーのの為コ「こま言ひこう今人出来さ」「エ」「言の神様ゝ」「嬢のお神
言言言」「現在女神へ仕懐嬢へ乗せ言廊の三人と言ひさ中要
みゝく言殿ゝ言ゝう為花遅ま」「幼南ゝうゝう」「エこうやゝうて」「嬢が生れ
さ年月ゝ言」「辰の年辰の月辰の日の辰の刻の絶ー此門千鳥の為言」「カこ辰の

月日附の生れの婚吏人（妻）「そうんとさし出んを（き）「ハテ婚めの（妻）「ヱヽ　ト　[illegible]

さ「ヽかやす拐子を壊（のち）ニ（妻）「そん事　[illegible]（き）「婚を十年まるろくいて（妻）「お種　[illegible]

き「何ゆもあくゞそ又（妻）「ヱヽ（き）「[illegible]がけふ拐子をち[illegible]と（妻）「[illegible]焼うたんを　ト　[illegible]入りてた[illegible]

ぶひ入[illegible]て[illegible]くるチ「ちうまと出て[illegible]の袖や妻月[illegible]が婚[illegible]の年月[illegible]

あの[illegible]が生血をえべ[illegible]らしく[illegible]忘れられぬを[illegible]い[illegible]今[illegible]綾絹と[illegible]

の[illegible]も[illegible]く　ト[illegible]を　コリヤ[illegible]よ　ト[illegible]の火を[illegible]（綾）「アコリヤ[illegible]

[illegible]く[illegible]今おまへ[illegible]せ[illegible]敷[illegible]あうすくら[illegible]人[illegible]でよい[illegible]又お[illegible]が

[illegible]ぬて[illegible]でござる　ト[illegible]肉千鶴の[illegible]綾絹が（チ）「[illegible]綾絹（綾）「ヱヽ　ト[illegible]チ「[illegible]

[illegible]千鶴の[illegible]を清くゝて[illegible]をあうて[illegible]（綾）「そん[illegible]千鶴

[illegible]（チ）「[illegible]と[illegible]の（綾）「ヱヽ[illegible]　ト[illegible]千鶴の[illegible]綾絹[illegible]（綾）「[illegible]（チ）「[illegible]

[illegible]　ト[illegible]綾絹を[illegible]（チ）「アア[illegible]でよの[illegible]　ト[illegible]（可）「[illegible]

綾絹を[illegible]知[illegible]　ト[illegible]肉[illegible]千し[illegible]の[illegible]の肉の綾絹を

[illegible]の[illegible]入る（チ）「可[illegible]（可）「千鶴のお[illegible]（チ）「そん[illegible]自[illegible]

ぞ（可）「ヱヽ[illegible]お礼をアモ[illegible]　ト[illegible]

[illegible]（可）「ヤアそん[illegible]を大坂[illegible]「ヱヽるんと[illegible]

さよ　ト[illegible]千[illegible]の[illegible]肉[illegible]（チ）「ヱ[illegible]

[illegible]　ト[illegible]や[illegible]

さつ[illegible]あの[illegible]綾絹[illegible]の[illegible]

[illegible]綾絹を[illegible]　ト[illegible]千[illegible]

[illegible]の[illegible]　ト[illegible]

く　ト[illegible]アイ[illegible]コレ[illegible]　ト[illegible]

アヽ[illegible]ぴつくりしてこちやりやく　ト[illegible]

後ろ姿
六さく
千鶴屋
司之助

自がつかへるに癪気ト云ながらちゞくちあふをおしこみ入て　アヽコレ息がつかへてちゞてならぬ
さし　ト又言ながら手をつかへてさすりがてむせうに抱て居るうちあるにいゝ自もあはてさはぐ
ばかりに　ト手を搯つてヤア百舌が出たさ　搯好に納会ぬばかりのあねてあつすこしの人ト千田
がこそすゝめ　詠曲の息のとゞやコヽなつきなを深ず紐も焚なそれでばかりなにあれる
○アヽおそしやし　ト言ながらうろゆかしらてのがみに気さへちよいやういみてそろ〳〵
姫ごぜの口とりか　ト倚りかゝりながら何じややばけでおく酒をやく○そこアやるんだ　ト言ながら
何じや人の心中じやあの自が心をとゞめて心中をさせるか○ヤ中のなア　お茶の遊びの勝負かな
さくあの酒のつがや二つがこめられてもらえ外にいゝ　ト言ながらおかしく見ばかりのさそひあく酒をくら
アイ久しくコリヤとひどくそれらに天窓が当ちくのさトトにおちつかゝ何じや人の心中じやない
ふりへ〳〵○ケ至りつつく　トお酒をかへてる　へそんならそれツト又どうかへるおる　へいゝわく
へ千さエ何ともなく　ト勝手を　へそんならふじや　トぬつとむしやうにくらやみを千田の肩
くらくがさし近寄でおちへ

ぐ〳〵そよう　へ支度　お肩が千鳥が　ト搯へ袷一しよにをつかみ置き　ヤア又肩　へ千田がへへ　へきやか
く西と奥か
これ　ト身しよへと呼さしおかれて千田の肩　チヨシく　ゐ
ハアと後から体にようし〳〵を振る
造り物三間女郎屋二階下社の方に障子奥の方に上りの下に三尺程の板塀
ならぐつゞと門口大坂屋といふのゝまへをちけ鬼みどり小すへ内居の秋ふてお十夜
まて奥二階奥の方に勧風女郎の乾内居にて読書にむかひみちうひまて居る
西の方おゝ出に呑善読をまはりせ内居の耽読をしてる顔ふて後向にし火燵にあ
たりながら本をなをして居るはつへ会方ふて休ゐ居る

へコレ〳〵みどりさんしやまんどうへのふちつく体ふでちて西まへゐ　へ小よくとおきさうなかりの
まんどう何がある秋ん方か中の搯嬢が無心てきまりが有揚屋へ出ごしゆんでゆくのぞ
おるかよやあのか　へ小事それへ今知らず座つけんど手ちかくの居る休んでつる　へ補ない
あるうち秋ん方か中の間にかへりて又何ぞいれるにあの手ずおもしや　へ小さんそりり気何ぞやその

ト又あ人おそなおてみるト
二人ぐるみで表へ出て来て 与「ヤイ売た又裏へ出て行てくろう三味線のけいこも仕ないで
トそゞろ小丁人内へ入 吾妻 コレ初風やどうえ仕舞へ出来ぬくのひまる座敷も紬
座敷もくり来て人様がかゝるげるなぜ君にお目に逢て国之助が来て居るのか
ぼろしと坊の所ぬ子お行ぬくの 初「アイもふ仕まへでなんと吾妻へ行だろう
よふさらずア ト続き行る 与「コリや吾妻語 吾「アイ トふみをあげ 与「やよへざぶや吾妻
随とらふ全盛のさまがる見ねひちふて方々の揚屋くへあそふの藤末にまるのと
座けられ此親方ふる振そよけ西九道具も何も角も皆質屋へ居つけさせ次の
つくすうか乱ま繁つや如くへ高ゝよ出どやまれ此まうに二階へぶち上てまとて御
あづく火燵矢倉と毎日眉引お女郎に悪態をそらふてられるよ初風も客を
えんゐるふるよイヤモ人間も恥知ぬ男に来てさ事れじやそんに難そうるも後が立
まい ト放て引立 表「ぜんての御後立へなでなんぞすも此やうに二階にだろう見のへ

太夫いや大々若いの手がやらんでん此ろうしとふかきて行の国之助を出ひなぞふつつ
と云ひ切く出て来る此所ふ引てはりて親方のお役に立ねなので、さららぞ娘
へ出ゝてさうとお手をひかされて下さんせまふ 与「イヤそうやるまぬ 初「それでも吾妻
随分のあの方ふ云しゆんそのさましのなじみをあふて親方さちへ成とおろしてよ
うちゃんせまふ 与「コリや我らが養子にひとつなる女郎へ出て居てよけれびなふさく
出ていて勤めたくれどる女郎へ出て己が身請して国之助に添せてなふぬまを
とひまのまき此与の部がうんぬんて居ず 吾「何の事そふ頼みまそ 与「ハテいふかいやく
こくらの方のまで気が付いで大勢の女郎衆が一つられるもの方が思ふるまでも
ぶふいふるまゝや桔梗屋の妻月様が我と請出をとらふて将来まで今の世間で
それが添せべ和の男にも立それちとそそちの客の手を出ひもようたちどく ト
批ろにまそうすぬて奉ふられかうずでその ト二人のまがりによう女房
おふろん車のまうしく おかろ「こつの人

技量をくらべ芝居のうけ狼狽へは来さて東に有くがよいではないか 与「それじゃによっていふてさん
とあれさどれ 持ってアノ初風も東に行ぬり 「それく初風さまに急いで行さやれ
ト与五へつめよりして下へおりる合方 初「吾妻路さま喜日付さまや縫浦さまとあるへまにも
用がござんせぬへ 吾「わたしのお相角なさまを取方があるが実へあがってゞはれわしこ
ましま ト言ひながら奥へにじりよるさをしらく お世話ながら吾月様を尻けて下さんせ 初「アイく ト奥へ
与五郎 吾「コレく急いで来る此所へさへ下さんを待人 初「今爰じゃそのおかた縫ひてくださんせ
初へおりる 吾「ろうか雛鶴や小大夫さまが恋と休みてが付しかし知らぬそれに付ても
よひ肩尾がするさき殿方にもおぞやうとあゝぬがどうしていやしやんすやら
本に待かねて浮世さやあ ト奥へつゝ文と来るゝる合方にて此花乃介同之助段巾
待せ居の取りてあとが庭段せく市段巾ゑ文
若住しまて せく市「ゆく殿さまお吾妻さまに汗動きが有さ之 関「由りく脇り今で
付て出く
大名の表殿さじやそれに二階へ押出られて居る吾妻路さま運動のありくも

親も娘でみるでみそも文動きが有りく脱べとすり出でそれのも立揺で西宮にあれ
でるなら「左様でござりやす ト与ひく武士へ来て 関「それくまが何の段中や待とろって せむ市で
すへ二階へ上りて吾妻路が飛り去るまでそのまでそへてくぜりまするへそれく何処へ
せかも知ぬ行と西宮でてゐるから 「おもしろふなりかたも 関「そりゃ納来の ト膳
まへて紙を出して手を 「ゆき紙へ 関「ひろがるなへ持て居て武角じやし 「子を恋
出しくらを
ト関しも庭段へせく市にきいて大坂屋の門口へ往きせて市つけ参る 「ハイせむ市でござりやす ト内 関「よふよふきさ返
入んせ 「二階へ逃りるも大事のおかゐぬり ト内 「大事なるとゐのとき合のもじや
あるふいてやんせ 「ハテし ト言ながらせく市は立て行く二二かくよう吾妻路を揚りして 吾「ヤア
お手へと ト吾く 関「コレ〇ハイせむ市でござりやす 吾「よふよふさまさま吾な
「アノくうすうものかくうも嬉しい海気つまりであるのいかがやうなる肩尾が
まふてまあさの新ぬよりて大節や大くな業でさ来でかるなどの 吾「さらな

内も邪もぶ肩尾ふ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐうこ押ぬられて赤ふ内もお糸の目ま吹所ふれぬ
嵯峨美語らふ新ふせさト さ糸さ逢さふさふのく〳〵ろ行どもく まさぶ紙びや
そ物さとふふ清出てふふらふ赤月ぬが一人糸ともんぐ世話ぬいてふふる
ふいの〳〵糸ふんを焼ふのぐ底色それ糸ふ目と綾紡ぬがぬんふ板と立さん
ふふぐ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵

毒薬「ひとり」は差と「さそ」ばえとあり ト時人紙帳の内、てゝ〻〻ヨミ〳〵あり

えの揚至る成ト上の方ニ五斗く改ひくく成る生命ニ千侍の肩疵の仕様と

対陸翔ゆく寄ゆとして成る喜時光を固くある入る玄竜子分侍大将分へ

成ゆえへと流くくだらく〻ゆく遥らく留る

「千侍のお肩スリや手柄が辰の年月拾ひ」はれとる「現立親のはらあうこが侍方

津捻義輝公の御用ホ五大呆報若それぞやよろく自ぐ今行の暁の血涙と成て ト暁毋ヤリ

上ると表り地表

よろく留く「イヤ〳〵ここゆきて伺ひでも殺あ〳〵可愛そふこよくけまる忍若の生血と成ふ

ちそそつやあんまり無分別「何分益人女ちゆめが拾ひそはべりあるそ矢張の表来

どやげる動面清てそ〻ゆ今氏ゆたと殺く御用ニ立べ三人くの忠義ゆ立ひ成ふ

トつ成ちそ三斗の民「中く刻くのり「今スリや千侍の肩分三人の御用ホ立べ忠義ゆ成るこ分

「忠義ちもく殺ゆちる成ゆ月ゆ辰ゆ千侍成ひて命と

さ上斗ニ人のふ「相ちいゆく忠義ニ命と「そくぶそ斗分とくこゆ成れる

と成ちる「御共房ゆく千侍成ゆ少ちあ三へ「ひどゆちこちハゆるゆあれど見

ゆ成三の形ゆこちゆ「ト」そくゆ成ちく「ゆこ成ゆちあと成ゆと寄へ「千

侍成ゆく成れへ寄ろ成「何で月ゆ「御上意」「ゆと」ト張る「こを方ゆ年月

見の成めのと殺ちろふ感ちゆひあ男ニ成ゆ服病ニ用ゆ辰の年ちおの成でゆ

ちゆく余人と成ゆ分と遊成んと成た天命のゆ成で今日今月終律級命ゆ成ニ

血涙ちこ上ゆ成れい「アコ〳〵」三斗成ちちや仏ゆいゆよゆ茅の血涙ハフノ時め

ち成ニ月ゆ「イヤ御用ニ成ちこ千侍の肩ちゆ血涙ち用ゆ成へ寄れ「イヤく

ちゆも見月ゆ成ち辰で成ゆ成ゆ「イヤ成ちもひの〳〵千〳〵ゆひの〳〵千の成れ殺成

ゆ成ニ孫ゆ成ニ成ち辰の年ちゆちらしふ四月「イヤ成ち拾ち寄ニ西ト伝

紙と成ち辰の年辰の月辰の日辰の刻ニ誕生の女子寿命長久「ヤ〳〵ちんちち分

トまるうより出情出情あれ新郎と変じてみそんるうこと出付と元遠へこうや〳〵つる飛投
の出るうへ元子遊れぬ乃帯小兵博〳〵そあ車〳〵中せ〳〵ゆうそれ〳〵ゆうく
何とじや〳〵子口中の張〳〵おせこ我乃の幸と元ちびこちうう飛投こ成てのひさ
るうだ広場こおめく武打のお役こ元ちびるめうこ殘金る〳〵時刻がうつる衣
元えげ〳〵ハア衣元をおめびるれト西方がらくめびこうる〳〵何ちるのじやめ姫ごせと
らへくあ〳〵しこ元外ちると乃こるうめぞ〳〵中ト申こ衣元とめがと千〳〵母の高ち係侍
成乃常こそ元車さトせーうの上〳〵何じやの延の上こうれちこく善のあちう
何ぞのうふこトこ元宅〳〵イザ狗をお開れるれ〳〵コリや坊こ何ちるのじや〳〵元寿
ちる〳〵何じやこ元歩ちる貞公找本のあうこ元びあうろ〳〵元ちうこ
元宅宅〳〵行の勝の寄こ付九の寄こあうこうこうびうこ一寸役下ト元宅寄こ
〳〵ハイ元宅ち係今法服こ成こけうるち役がうげじやとらふひ千係がうみじや

ぞこ義解元れ見物の打ちうお所痛の業こせんさの業とあうこ豆の上ち西公自ゲ広ゲで
つ元ぞ重こじやえう乗ちうものぞゆうち係法服こ〳〵くれ〳〵時刻がうつるあと
のけこ乗りさ〳〵何じや女の中れこあ公のけふれ見今こーやあ公のけこうるゲ見ち
助いゆんうのふ〳〵何とあゆうらーふ〳〵何ゲあゆうらーふうめあこうるしふ
あこ役の元あうこく アイタ〳〵コレ癖ゲ紀つこ事こ元の癖のちりこ元ゲお役こ
元れゆんうの〳〵お癖ゲおこりこ〳〵ドレお脈と ト脈と〳〵こすりるや癖ゲ紀てあふゲ
のおかゲ乃ちあちゲ元こ元ちふゲの〳〵イエ〳〵中くお脈ち大丈ま元ち元で乃ち外
〳〵何公ぬうこト元宅ゲ あゆ〳〵ゆ刻ゲうつる〳〵笑癖ちうれトつゆ〳〵ちうやのふ
たきめト西ちとうちちうち斗の広ちうる西 〳〵南西何係 ト広ちこ係へ〳〵ゲ
ト元ちこ元ちこ帰ちこ元ちこ斗ちこ元ちこ元ちこ元

[illegible]

[illegible]

[illegible]